

月刊ウィーン

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
おかげさまで今年は 創刊 23 年目
創刊 1989 年 No.269

GEKKAN-WIEN 2011年11月号



Fernando Botero Schneidererei 2000 Öl auf Leinwand 205 x 143 cm Privatbesitz © Fernando Botero

フェルナンド・ボテロ(一九三九年南米コロンビア生/現在パリ、ニューヨーク、モンテカルロ、ピエトラサンタに住み制作中) 『洋裁店』二〇〇〇年 カンヴァスに油彩 私蔵
バンク・アウストリア・クンストフォーラム Bank Austria Kunstforum (ウィーン1区) 『フェルナンド・ボテロ展』 1月15日まで開催 10頁参照



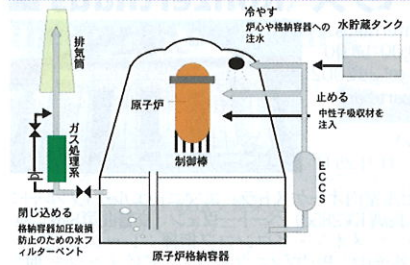
杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 2



七月に赴任した京都大学では、福島原子力発電所事故に関する雑誌社のインタビューを受けた。この講演を引き続き行っている。この事故の教訓の一つに、シビアアクシデントの発生防止・影響緩和対策（アクシデントマネジメント対策）が不十分だったことが指摘されている。一九九二年の原子力安全委員会の声明を受け、アクシデントマネジメント対策の整備方針についての検討が行われた。以前にも記したが、筆者は原子力安全委員会のアクシデントマネジメント検討小委員会の委員だったこともあり、今回の事故では責任を痛感してゐる。例えば、福島事故で問題となった格納容器ベントでもシビアアクシデントが起きつつある時に弁（ベント）を開けることがどの程度可能か、誰の責任で実施するのかが大いに議論したが、まさに当時懸念された通りのことが現出した。整備方針に基づき、各電力会社がアクシデントマネジメント対策を整備し、原子力安全・

保安院から原子力安全委員会に報告されたのが二〇〇一年である。ただし、当時の知見の限界から地震や津波は考慮できなかったその後のフローが十分でないかと、またそもそもアクシデントマネジメント対策は事業者の自主的な措置であり、規制のような強制力がないことも教訓として指摘されている。今後はアクシデントマネジメント対策を規制の一部に取り込むとともに、地震や津波は勿論他の事象も考慮するなど実効性を格段に上げることが求められよう。前号でウィーンと京都が似ている第一の点として、古都としての長い歴史と伝統があることを述べた。両市の長い歴史から見ればつ最近のことであるが、ウィーンは二〇〇一年に「ウィーン歴史地区」として、また京都は一九九六年に「古京都の文化財」としてユネスコの世界遺産に登録された。登録されている京都の建築物は、上賀茂神社、下鴨神社、東寺、清水寺、延暦寺、醍醐寺、仁和寺、平等院、宇治上神社、高山寺、西芳寺、天龍寺、金閣寺、銀閣寺、龍安寺、西本願寺、二条城の十七ヶ所である。登録基準のうち、両市とも基準（二）「ある期間を通じてまたはある文化圏において、建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの」及び基準（四）「人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例」を満たし、さらにウィーンは基準（六）「顕著で普

BWR原子力発電所のアクシデントマネジメントの例



遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と直接にまたは明白に関連するもの」も満たすとしている。ウィーンや京都が世界遺産として認定されるのは、劔豪宮本武蔵に劔道の表彰状を授けるような「今さら」の印象を筆者は持つてしまいが、上記の神社仏閣を訪問すると世界遺産の石碑や銘板が麗々しく置いてあるので、観光客の増加には二役買っていると思う。

余談であるが、先日高校の修学旅行以来四十四年振りに世界遺産の一つである金閣寺（鹿苑寺）を訪問した。学生時代もその後も京都は何度か訪問したが、金閣寺は一度行けば十分と勝手に考えていた。しかし、昭和六二年に金箔をそれまでの五倍の厚さに張り替え、平成五年には屋根の茅を張り替えたため、かつてのイメージは新し、華麗さを一段と増したことに目を瞠らした。紅葉にはまだ早かったが、緑の木々と池に映える金閣寺をスケッチしたので、その雰囲気は少しでも伝わればと思ひ、素人絵で恐縮であるが掲載させて頂く。

■杉本純
京都大学教授／元原子力機構ウィーン事務所長

